

令和元(2019)年産なしの管理ポイント (第6報)

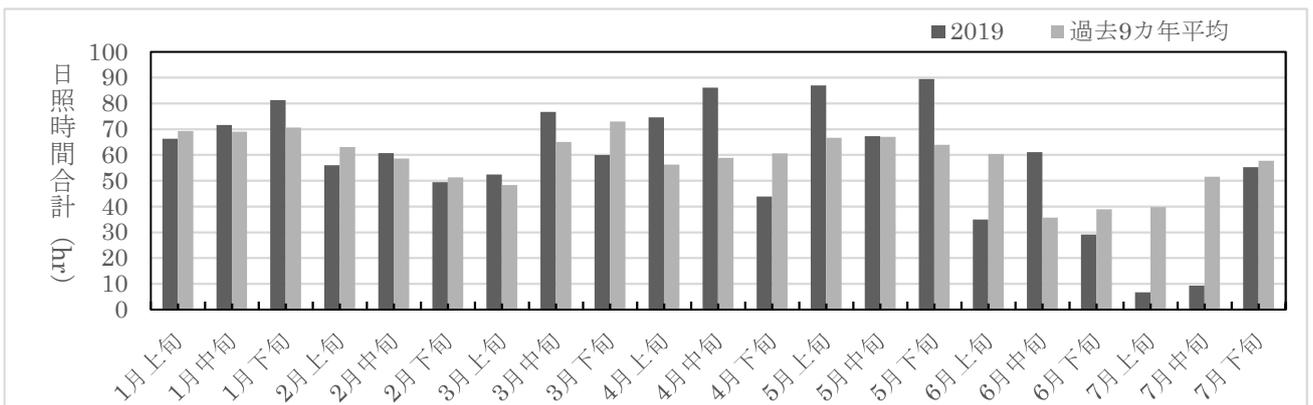
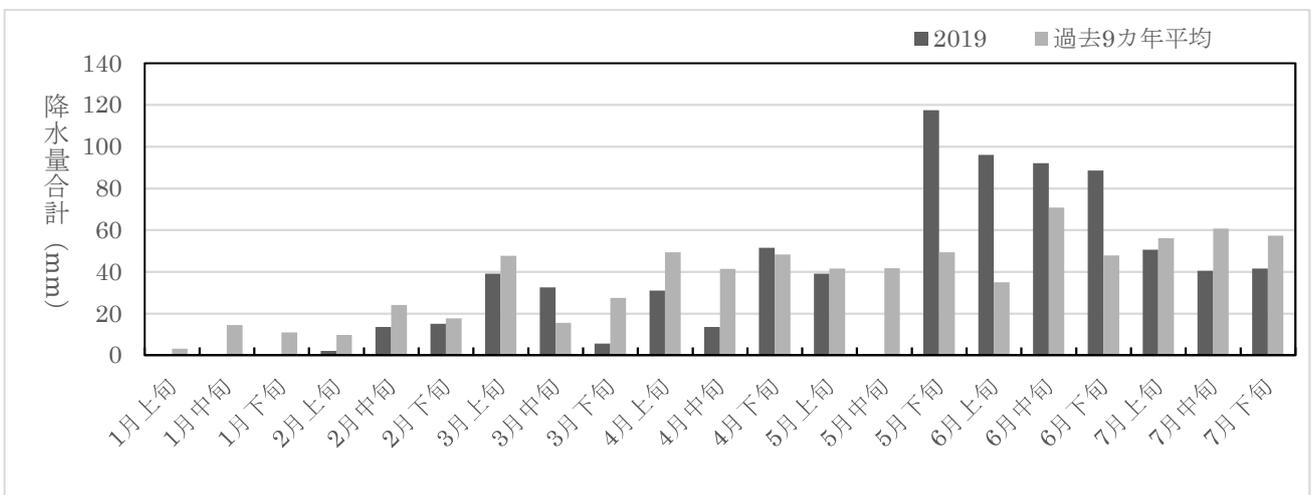
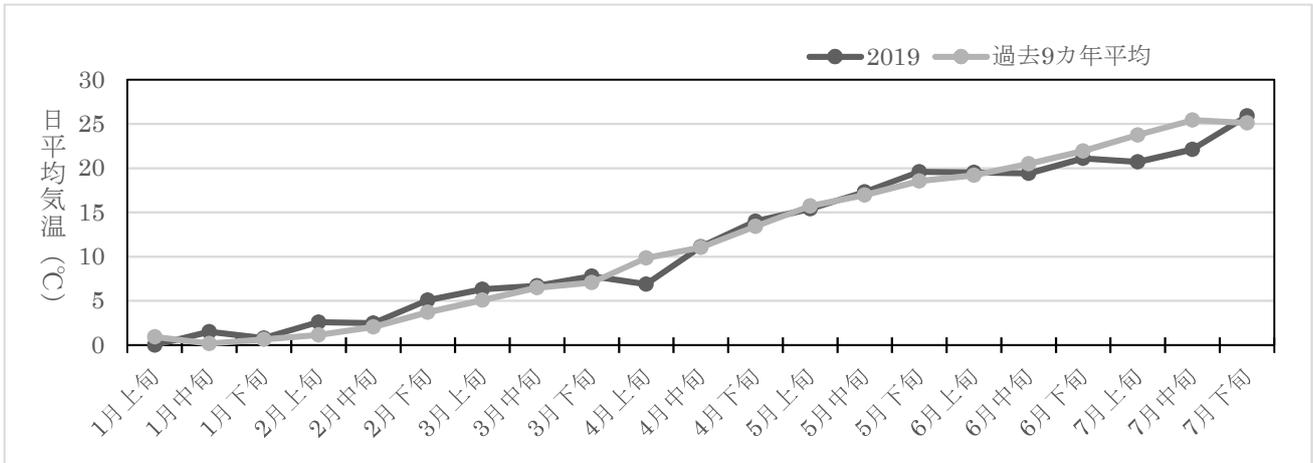
令和元(2019)年8月13日

栃木県塩谷南那須農業振興事務所経営普及部

☆今回の管理ポイント

- 「幸水」収穫時カラーチャートの厳守。
- 収穫前の気温が高い予報。果色の進みよりも果肉成熟が先行することが予想されるので、収穫遅れがないように注意する。
- 「豊水」の果実生理障害が多い予測。過熟果で発生が多いので、収穫が遅れないように適期で収穫する。
- 使用する薬剤の収穫前日数の厳守。

1 気象経過 (アメダス：那須烏山)



2 果実肥大状況

「幸水」は平年並、「豊水」は平年よりやや小さい。「にっこり」は農業試験場のデータから平年より大きいと思われる。

表1 主な品種の果実肥大経過

品 種 名	調査地点	開花盛日	年 次	果実横径mm (満開後日数)					
				30日	40日	50日	60日	90日	100日
幸 水	那須烏山市 (生育診断ほ)	4/24	本 年	20.8	26.8	31.1	35.8	61.2	72.5
			平年比	100	101	99	100	102	101
豊 水	那須烏山市 (生育診断ほ)	4/21	本 年	/	24.9	28.0	/	/	61.3
			平年比	/	98	95	/	/	98
にっこり	農業試験場 (宇都宮市)	4/17	本 年	24.5	32.0	37.1	40.8	59.3	68.9
			平年比	103	104	102	100	103	104

3 果実収穫期予測

- 7月30日時点の収穫期予測では、「幸水」の収穫始が那須烏山市で8月19日、高根沢町で8月16日の見込み。「豊水」の収穫始が那須烏山市で9月6日、高根沢町で9月4日の見込み。

表2 生育診断ほにおける収穫期予測

品種名	調査地点		収穫始	収穫盛
幸水	那須烏山市 (生育診断ほ)	予測値	8/19	8/24
		平年比	-1	-2
		前年比	+8	+8
	高根沢町 (旧生育診断ほ)	予測値	8/16	8/23
		平年比	-2	-2
		前年比	+8	+6
豊水	那須烏山市 (生育診断ほ)	予測値	9/6	9/14
		平年比	-4	-5
		前年比	+3	±0
	高根沢町 (旧生育診断ほ)	予測値	9/4	9/14
		平年比	-4	-4
		前年比	+6	+4

※ 「-」は早い、「+」は遅いの意。

【参考】 本年の管内各地域の開花盛日

○南那須地域

No.	地区名	開花盛日	
		幸水	豊水
1	大桶	4/24	4/22
2	興野(北)	4/23	4/21
3	興野(南)	4/24	4/22
4	滝	4/23	4/21
5	中山(上)	4/24	4/22
6	中山(下)	4/25	4/23
7	福岡	4/25	4/23
8	八ヶ代(上)	4/21	4/19
9	八ヶ代(下)	4/25	4/23
10	芳井	4/23	4/21
平均		4/23	4/21

○塩谷地域

No.	地区名	開花盛日	
		幸水	豊水
1	台新田	4/22	4/20
2	大谷	4/23	4/20
3	柏崎	4/26	4/25
平均		4/23	4/21

4 幸水の果実肥大予測

- 「幸水」の収穫時における果実肥大は平年並の見込み

表3 生育診断ほにおける果実肥大予測

品種名	調査地点		横径 (mm)	果重 (g)
幸水	那須烏山市	予測値	87.3	332
		平年比	99	99

5 「豊水」の果実生理障害発生予測

- 「豊水」のみつ症とす入りは、5月の気温がやや高く、7月の気温が低く推移したため、発生は平年より多い見込み。
- 満開後100日の果実比重および硬度は平年より低い。収穫時の果実は平年よりも柔らかいことが予想される。

表4 農業試験場の豊水果実生理障害予測

項目	予測値	発生程度	平年	昨年	多発年予測 (H15)
みつ症	3.0	多	1.4	0.9	2.5
す入り	3.2	多	1.4	0.9	3.6

表5 豊水満開後100日の果実特性 (比重および硬度)

	本年		平年	
	比重	硬度	比重	硬度
高根沢町	1.031	9.9	1.036	17.2
那須烏山市	1.030	9.6	1.036	14.4
県平均	1.030	10.2	1.037	15.2

6 当面の管理ポイント

(1) 収穫期の注意点

①「幸水」の収穫

- 選果日程、出荷申し合わせに準じた適期収穫を行う。
 - ・収穫時カラーチャートの厳守
 - ※県統一目揃会や各部会目揃会で提示される申合せを遵守。
 - ・満開後日数、果色の進み具合、食味等をよく確認しながら適期収穫を行う。
 - ・収穫前の気温が高く推移する見込みのため、成熟日数よりも果色の進みが遅れることが予想されるので、収穫が遅れないようにする。
 - ・収穫した果実は直射日光の当たらない場所に置き、果実温度を上げないようにする。
- 予備選果の徹底
 - ・病害虫被害果、未熟果、過熟果等をよく選別し、選果場へ格外果実が搬入されないようにする。
 - ・黒星病罹病果、小玉果の扱いは、各部会申し合わせに準ずる。
- 収穫後の二次汚染防止(ホコリ等)を徹底する。
- 生産履歴の記帳・点検を行う。

②「豊水」の収穫

- ・果実が過熟になると生理障害の発生が多くなるため、果実成熟度をよく確認し、収穫が遅れないようにする。
- ・果実が平年よりも柔らかいことが予想されるので、取扱いは丁寧に行う。

③農薬の使用に関して

- ・使用する薬剤の収穫前日数を厳守。残留農薬に影響するので緊張感を持って対応をお願いしたい。8月に入ったら、収穫前日まで使用可能な薬剤を選択する。
(注)「収穫前日まで」とは? → 薬剤散布後24時間以上経過で収穫可能



農作物には登録農薬を使用し、使用基準を遵守しましょう!

身支度も
万全に!

- ①農薬容器のラベルをよく読み正しく使う
- ②農薬の飛散防止を徹底する
- ③農薬の使用状況を正確に記帳する

④収穫準備

- ・コンテナの清掃、予備選果場所の清掃など収穫期に向けた準備を早めに行っておく。
 - ※特に予備選果調整場所は燃油、農薬類との距離をあけるなど、事故防止や二次汚染防止に努める。
- ★GAP自己点検の実施：確認は何度でも
基本は5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)

(2) 病害虫防除

○黒星病

- ・梅雨入り後の低温多雨、日照不足の影響で、「幸水」及び「豊水」で平年より発生が多い。
- ・罹病部位(芽基部、葉、果実)の摘み取りと園外に持ち出しての土中埋却処分を徹底する。
- ・薬剤散布は、雨前散布を基本とする。
- ・治療効果が高いQo i剤やDMI剤はスピードスプレーヤーの速度を落とし、薬液が葉などに十分かかるように散布する。

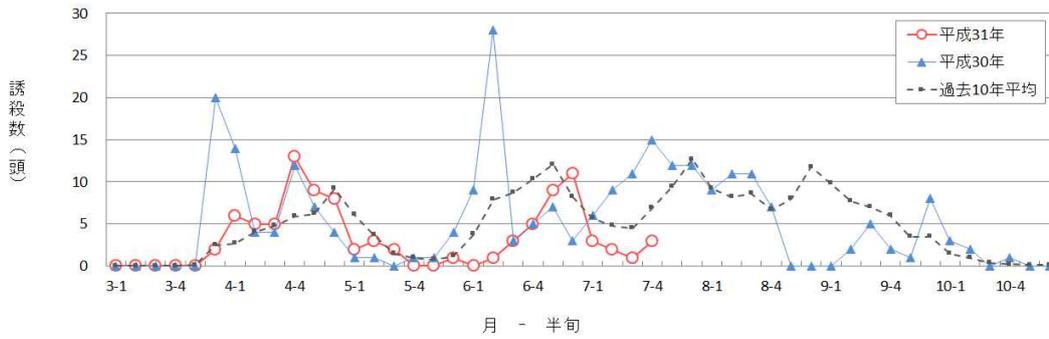
○ハダニ類

- ・発生は平年並。今後の高温により、発生が多くなることが考えられる。
- ・発生密度が高くなると薬剤散布を実施しても発生が止まらなくなるので、園内をこまめに確認し、早期防除に努める。

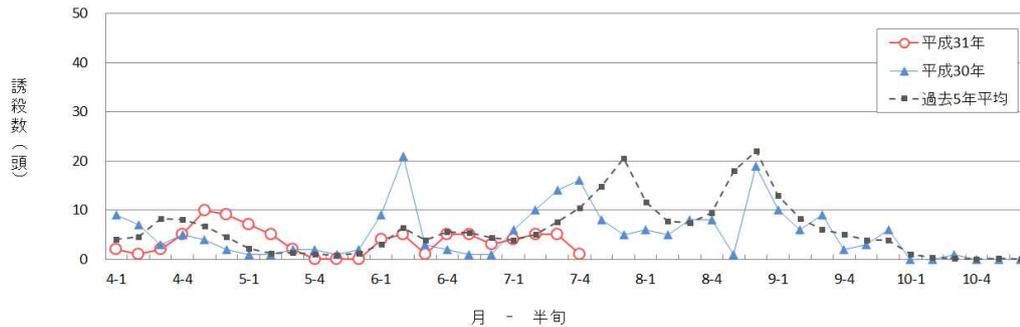
○ナシヒメシンクイ

- ・第2世代の発生ピークが7月28日、第3世代の発生ピークが8月27日と予測される。
- ・幼虫期の防除が効果的なので、発生ピークの1週間後を目安に防除する。

ナシヒメシクイのフェロモントラップによる誘殺数 (那須烏山市)



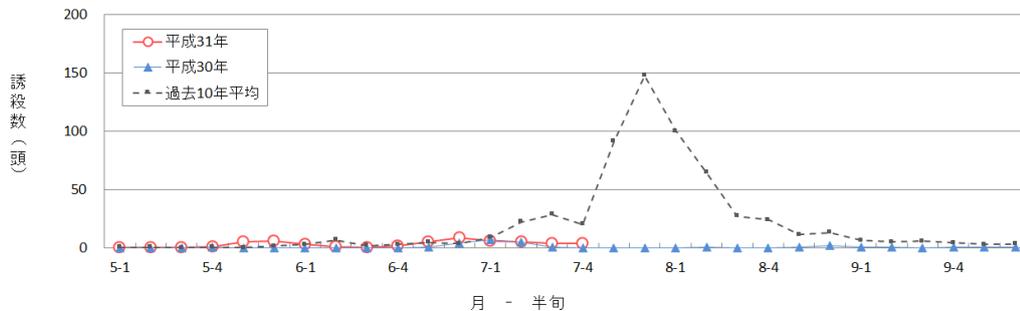
ナシヒメシクイのフェロモントラップによる誘殺数 (高根沢町)



○カメムシ類

- ・ 県農業環境指導センターの調査では5月まで発生量が多かったが、カメムシ類のエサとなる今年のスギやヒノキの球果量が平年よりも「かなり多い」(県林業センターからの情報)ため、果樹園への飛来は少ない見込み。
- ・ ほ場付近にカメムシ類が好む樹種(スギ・ヒノキ、核果類(さくらを含む)、桐等)がある場合は、念のため発生に注意し、発生が確認されたら、必要に応じて防除する。

チャブネアオカメムシのフェロモントラップによる誘殺数 (那須烏山市)



7 長期予報

(1) 1か月予報 (8月1日気象庁発表 関東甲信地方8/3~9/2の天候見通し)

○予想される向こう1か月の天候

- ・ 平年に比べ晴れの日が多い。
- ・ 各階級の確率

気温	低い	10%	平年並	30%	高い	60%
降水量	少ない	30%	平年並	40%	多い	30%
日照時間	少ない	20%	平年並	40%	多い	40%

(2) 3か月予報 (7月24日気象庁発表 関東甲信地方8~10月の天候見通し)

○予想される向こう3か月の天候

- ・ 8月 平年と同様に晴れの日が多い。
- ・ 9月 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多い。
- ・ 10月 天気は数日の周期で変わる。

・各階級の確率

気 温	3か月	低	い20%	平年並	30%	高	い50%
	8 月	低	い20%	平年並	40%	高	い40%
	9 月	低	い20%	平年並	40%	高	い40%
	10月	低	い20%	平年並	40%	高	い40%
降水量	3か月	少ない	30%	平年並	40%	多	い30%
	8 月	少ない	40%	平年並	30%	多	い30%
	9 月	少ない	30%	平年並	40%	多	い30%
	10月	少ない	30%	平年並	40%	多	い30%

7月～8月は「農作業中の熱中症による死亡事故」が集中します。



高齢農業者の事故が多発しています！以下のことを心がけましょう。

- ・こまめな休息、水分補給を行いましょ。
- ・日中の気温の高い時間帯の作業は控えましょ。
- ・単独作業を避け、一人での作業の場合は携帯電話を持ちましょ。



気象災害による農業被害を未然に防ぐため、
技術対策情報が 携帯電話等に直接メール配信される
「とちぎ農業防災メール」のご登録をお願いします！
併せて、気象警報・注意報等が直接メール配信される
「栃木県防災メール」のご登録をお願いします！



↑「とちぎ農業防災メール」
登録はコチラから



↑「栃木県防災メール」
仮登録はコチラから